

トヨペット マスターラインバンのレストレーション

沖野 嘉幸

昭和30年1月 初代トヨペットクラウン発売時、当初の販売方針ではクラウンは自家用に限定し、営業用向けにはトヨペットマスター(RR型)を同時に開発して発売しました。クラウンは自家用向けに設計されたにもかかわらず、市場に出してみると営業車の酷使にも充分耐えられることが分かり、タクシー用としても需要が高まったことから、トヨペットマスターは翌31年に生産を打ち切りました。以後マスターのシャシーやフロントボデーなどを生かした商用車“マスターライン”として開発され、乗用車なみの乗り心地を備えた商用車として人気を集め、乗用車から派生したコマーシャルカーを各社が販売するブームのきっかけとなりました。

レストア前



レストア完成後 RR17型 1956年 (全長4275mm 全幅1670mm 全高1590mm 軸距離2530mm)



この車両は長期間、屋外に放置されていたため、ボデー各部の腐食がひどい状態でした。このため腐食部分を切り取り、手作業で板金成形した鉄板を溶接にて貼り継ぐなど時間のかかる作業が多く、完成までに1年以上かかりました。

エンジン、シャシー関係



レストア前のエンジンルーム



エンジンを降ろし、完全オーバーホールを実施



トランスミッション、クラッチ等分解整備



アクスル等分解シャシーフレームの状態



完成後のエンジンルーム

ボデー関係



ドア、フェンダーの下部などは腐食して穴があいている



床面の腐食はひどい状態(車両の下から)



床面の右の腐食部分はこのような切断



切断部分は手作業による板金で成形



成形した部品を切断した個所に溶接貼り付け



屋根部分にも腐食による穴があいている



腐食部分を切断



鋼板から成形したパーツを溶接



溶接貼り継ぎした部分を調整



室内でも腐食部分が多い全ての部品を取り外す



当時、車両開発を担当された菅原留意氏にレストアのアドバイスを受ける



傷みの激しかったボデーもようやく塗装前の状態に仕上がる

内装関係



レストア前の計器板



レストア完成後